

進捗状況の概要（1ページ以内）

・学内の実施体制：本補助事業では、事業を効果的に推進するために「AP 実施委員会」と「指標作成委員会」を設置したが、平成 29 年度は前年度に作成されたルーブリックによる評価が実施されたことから、「指標作成委員会」を「指標検討委員会」に名称変更し、評価プログラムの開発や評価基準の平準化等を検討することとした。また、平成 29 年度は、本補助事業を評価する「AP 外部評価委員会」とは別に、本学の教育活動全般を評価し、助言を行う「外部評価・助言委員会」を設置した。

・中心となる取組：本補助事業では、本学の「コンピテンス育成を核とした教育改革」を加速させるための取組として、①学修ポートフォリオの見直し、②5 段階成績評価分布の公表、③指標の整備、④ディプロマ・サプリメントの作成を中心的な取組としている。また、様々なコンピテンスを効果的に育成するための環境整備として、本補助事業では 4 学期制を導入し、短期間でのコンピテンス育成や検定・資格試験等に対応した集中学修を可能にしたが、さらに 2～4 か月の 4 学期制を活用した海外留学や長期インターンシップなどの実施を通して、グローバル・コンピテンスやジェネリック・スキルの育成にも取り組んでいる。

・取組の成果：①の「学修ポートフォリオ」の見直しのためのシステム改修については、学内基本システムで 4 学期制対応システムの導入・運用、並びに「e ポートフォリオ」化のための学修支援システムの授業補助部分の機能拡張を行った。

②の 5 段階成績評価分布の公表は平成 28 年度に実施されている。

③の「指標の整備」については、非常勤講師に対しても本補助事業の説明会を実施し、各科目で育成するコア・コンピテンスの「コンピテンス配分表」への記載を依頼した。また、前年度作成した「ルーブリック」の考え方を学生に説明し、このルーブリックによる評価を実施するとともに、学生自身が学修目標到達度チェックシートの作成を行い、学生が PDCA サイクルを回しながら主体的に学修する体制を整備した。さらに、平成 29 年度は、「現代社会学」の授業でコンピテンス育成の重要性やルーブリック評価に関する説明を行うとともに、非常勤講師への説明会を通して本取組の理解を深めた。その結果、「コンピテンス配分表」に記載されたコア・コンピテンスを育成する科目が増加するとともに、科目の特性に応じてコンピテンスを育成する科目とそうでない科目の棲み分けが進んだ。

④の「ディプロマ・サプリメント」の発行に関するシステム改修については、学内基本システムと学修支援システムの改修を継続して実施し、その発行が可能になっている。しかしながら、「ディプロマ・サプリメント」の発行については、「コンピテンス評価が一般的ではない現状では就職活動で学生が不利益になる場合がある」との「AP 外部評価委員会」の指摘を受けて、再度検討を重ねている。

4 学期制を活用した取組としては、平成 29 年度は、主として海外留学や長期のインターンシップのプログラムを開発した。さらに、英語の外部試験を活用した入試制度の創設や、この入試により入学した学生が 4 学期制を活用して 2～4 か月留学するプログラムの開発にも着手した。

・補助期間終了後の継続発展に向けた取組：平成 28 年度実施の学生アンケートや企業アンケートを通して、4 学期制下のコンピテンス育成の有効性は検証されている。今後は、地域社会、特に地域企業に対して、コンピテンス育成教育や学生の多面的評価である「ディプロマ・サプリメント」の周知が、本取組の継続発展にとって重要となる。

・学内外への波及効果：上記のように、学生に対しては授業を通して、また非常勤講師に対しては説明会を通して「コンピテンス」育成を柱とする本学の教育について周知を図った。他方、学外に対しては、本補助事業についての高校生用パンフレットと企業用パンフレットを作成し、配布した。また、FD・SD 活動の一環として公開「AP フォーラム」を 3 回実施し、地域社会に情報発信するとともに、他大学の事例報告や AP の取組に関係する基調講演を通して、本学教職員の研修と意見交換の場を設けた。